

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 四国財務局長

【提出日】 2020年6月15日

【四半期会計期間】 第20期第2四半期(自 2020年2月1日 至 2020年4月30日)

【会社名】 ベルグアース株式会社

【英訳名】 Berg Earth co.,ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山口 一彦

【本店の所在の場所】 愛媛県宇和島市津島町北灘甲88番地1

【電話番号】 0895-20-8231(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役経営管理部管掌 薬師寺 朝徳

【最寄りの連絡場所】 愛媛県宇和島市津島町北灘甲88番地1

【電話番号】 0895-20-8231(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役経営管理部管掌 薬師寺 朝徳

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第19期 第2四半期連結 累計期間	第20期 第2四半期連結 累計期間	第19期
会計期間		自 2018年11月1日 至 2019年4月30日	自 2019年11月1日 至 2020年4月30日	自 2018年11月1日 至 2019年10月31日
売上高	(千円)	2,120,529	2,268,825	4,885,559
経常利益又は経常損失()	(千円)	62,039	198,989	31,912
親会社株主に帰属する四半期(当期) 純損失()	(千円)	51,247	119,993	3,767
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	49,887	93,823	10,241
純資産額	(千円)	1,277,652	1,231,155	1,337,675
総資産額	(千円)	4,307,793	4,581,995	3,715,788
1株当たり四半期(当期)純損失金額 ()	(円)	40.36	94.51	2.97
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	25.2	21.9	30.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	169,002	296,634	257,081
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	91,218	395,340	210,493
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	270,876	518,325	66,620
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	518,797	315,498	489,299

回次		第19期 第2四半期連結 会計期間	第20期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自 2019年2月1日 至 2019年4月30日	自 2020年2月1日 至 2020年4月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	91.10	52.90

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの名称を「野菜苗生産販売事業」から「野菜苗・苗関連事業」に名称を変更し、「その他」に区分しておりました報告セグメントに属さない「貸し農園事業」を「野菜苗・苗関連事業」に含めております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、2019年12月以降に中国で発生した新型コロナウイルス感染症は、各地で拡大し世界経済に影響を及ぼしております。日本国内でも感染症が拡大したことにより緊急事態宣言が出され国内の経済活動に多大な影響が出ております。現在は、緊急事態宣言が解除となり徐々に活動再開に向けて進んでおりますが、今後の経過によっては、当社グループの事業活動及び収益確保に影響を及ぼす可能性があります。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、企業の経営成績や雇用情勢が改善するなど、引き続き緩やかな回復基調で推移してまいりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症が全世界で拡大したことにより、日本国内では感染防止策として、緊急事態宣言に基づく様々な措置が出されました。国内外の経済活動は大きな影響を受け、抑制されたことにより今後も、事業活動や経済への影響が懸念され、先行き不透明な状況が一層強まっております。なお、当社グループの当第2四半期連結累計期間において新型コロナウイルス感染症の拡大により、売上高には影響はありませんでしたが、経費面につきましては、生産及び作業体制の見直しや雇用調整などを行ったことにより、感染症予防対策のために費用が増加いたしました。

このような状況の中、当社グループは成長戦略として掲げる「全国農場展開」「多角化・多品目化」「グローバル化」の下、人々の食と暮らしに寄与する農業を目指し各事業を推進してまいりました。2020年3月には、国内外の農業を中心としたフードバリューチェーンに関連する企業へ投資を行うコーポレートベンチャーキャピタル「FARM to TABLE FUND投資事業有限責任組合」を設立いたしました。フードバリューチェーンは、生産から製造・加工、輸送・流通、消費に至るまでの流れを一つとしてとらえ、それぞれが連携して生産活動の効率化を高めながら商品に付加価値（バリュー）をつけていくことを目的としています。当社グループでは、単一事業の横串活動を推進していくことにより、新たな技術やサービスの導入を積極的に行い、農業を中心とした循環型の「Farm to table」を実現するための取り組みを行っております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,268,825千円と前年同四半期と比べ148,295千円(7.0%)の増収となりました。損益面につきましては、野菜苗・苗関連事業の売上が順調に推移しましたが、生産設備拡大に伴う雇用拡大、新規事業等への取り組みに伴う先行的な人材投資などによる経費が増加しました。なお、これらの増加経費につきましては、当初計画に織り込み済みであります。このような結果、営業損失190,111千円(前年同四半期は営業損失59,376千円)と前年同四半期に比べて大幅に増加いたしました。また、経常損失198,989千円(前年同四半期は経常損失62,039千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失119,993千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失51,247千円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、セグメントの売上高につきましては、外部顧客への売上高を記載しております。

また、当社グループは、従来より「野菜苗生産販売事業」「農業・園芸用タネ資材販売事業」「海外事業」を報告セグメントとし、報告セグメントに属さない貸し農園事業を「その他」に区分してまいりましたが、第1四半期連結会計期間より、貸し農園事業を「野菜苗・苗関連事業」に含め、「野菜苗・苗関連事業」「農業・園芸用タネ資材販売事業」「海外事業」を報告セグメントとして変更しております。以下の前年同期比較については、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

(野菜苗・苗関連事業)

当事業部門におきましては、11～1月の閑散期の受注拡大に向けた営業推進活動により九州、東北、北海道地区の生産者や大規模菜園向けのトマト苗、3～4月の甲信越地区の需要増加によるキュウリ苗の受注拡大、2019年7月より事業を譲受けて開始した花苗育苗事業により売上が増加しました。また、春の家庭園芸の販売促進のため、全国の自社農場及びパートナー農場の苗在庫を野菜苗即納情報としてWEB上に公開する当社の専用サイト「ほうさく.ネット」の活用、無料通話、無料メールアプリ「LINE(ライン)」を利用した情報発信等を強化し、家庭菜園の販売強化を行ったことにより売上増加につながりました。その一方で、外出自粛等が続く中、イベントの中止等もありホームセンター向けの売上は減少傾向で推移した結果、売上高は2,190,227千円と前年同四半期と比べ124,898千円(6.1%)の増収となりました。損益面につきましては、2019年7月に事業開始した長野上原農場の通年稼働による、労務費、製造コストの増加、本社農場、ベルグ福島の生産設備新設及び改築による生産備品や減価償却費の増加、生産規模拡大に向けた雇用確保等を行ったことによる労務費の増加等固定費が増加した結果、セグメント利益(営業利益)は46,442千円となり、前年同四半期と比べ97,539千円(67.7%)の減益となりました。

品目分類別の売上高は次のとおりであります。

品目分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
トマト苗	691,106	107.2
キュウリ苗	550,701	103.0
ナス苗	210,566	95.2
スイカ苗	281,904	109.4
メロン苗	228,323	106.5
ピーマン類苗 (注1)	115,032	112.8
その他 (注2)	112,592	125.3
合 計	2,190,227	106.1

(注1) ピーマン類として、ピーマン・パプリカ・シシトウ・トウガラシをまとめて表示しています。

(注2) 玉ねぎ苗、葉菜苗、花苗等を含んでおります。

規格分類別の売上高は次のとおりであります。

規格分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
ポット苗(7.5cm～15cm)	1,213,340	104.3
当社オリジナル(アースストレート苗、ヌードメイク苗、e苗シリーズ、高接ぎハイレッグ苗、ウィルスガード苗)	517,911	104.4
セル苗(288穴～72穴)	427,331	114.6
その他	31,643	97.6
合 計	2,190,227	106.1

(注) ポット苗は、ポリエチレンのポット(ポリ鉢)で育苗した一般的な苗(当社においては、主に断根接ぎ木苗にて育苗した苗)であり、ポットのサイズが大きくなると苗のサイズも大きくなります。セル苗は、小さな穴が連結した容器(セルトレー)で育苗した苗であり、穴数が増えると苗のサイズが小さくなります。

納品地域分類別の売上高は次のとおりであります。

納品地域分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
北海道・東北	394,282	110.2
関東	865,659	104.4
甲信越	194,749	121.1
東日本地域 小計	1,454,691	107.9
中部・北陸	134,252	114.3
近畿・中国	294,158	93.0
四国	103,831	108.0
九州・沖縄	203,294	109.2
西日本地域 小計	735,536	102.7
合 計	2,190,227	106.1

(注) 静岡は「甲信越」に含めて表示しております。

(農業・園芸用タネ資材販売事業)

当事業部門におきましては、海外の種苗会社から優良な品種を選抜し、量販店に対して家庭園芸向けの品種提案、関連会社むさしのタネの品種を国内外での販売に向けて積極的に試験を進める等、開発・販売推進を引き続き行っておりますが、家庭園芸向けの種子売上が減少した結果、種子売上高14,582千円(前年同四半期17,090千円)となりました。一方で2019年9月よりAIを活用した病害予測サービスとセットになったハウス栽培向けの環境モニタリング装置、新たな肥料の営業推進により売上が増加した結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高48,419千円(前年同四半期比15.8%増)となりました。また、営業活動や販売促進費用等が増加したことにより、セグメント損失(営業損失)2,227千円(前年同四半期はセグメント損失373千円)となりました。

(海外事業)

当事業部門におきましては、現在、中国山東省にある子会社にて野菜苗及び花苗の生産、鉢花(シクラメン)の生産、トマト等の青果物の生産を中心とした施設園芸、生産技術開発のための試験等を行っております。

前事業年度より中国国内向けに肥料、袋型液肥給液システムを使用した栽培システムの販売を開始しており、肥料販売が増加し売上拡大に繋がりました。また、2019年12月に業務提携を開始した株式会社ホープのイチゴ苗を、中国国内へ向けに輸出するための準備を開始しております。新型コロナウイルス感染症の影響により中国国内等で営業、マーケティング活動が制限されておりますが、引き続き、中国での育苗事業を中心として新たな事業基盤となるために、海外での事業拡大に向けて、生産設備や育苗の技術開発並びに農業関連市場の調査等を積極的に行ってまいります。

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高30,178千円(前年同四半期比125.7%増)、損益面につきましては、海外事業推進に向けての人員増加等により販売費及び一般管理費が増加した結果、セグメント損失(営業損失)26,650千円(前年同四半期はセグメント損失21,410千円)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産の合計は、前連結会計年度末と比べ866,206千円(23.3%)増加の4,581,995千円となりました。これは、受取手形及び売掛金の増加417,699千円、仕掛品の増加89,705千円、有形固定資産取得による増加282,242千円等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債の合計は、前連結会計年度末と比べ972,726千円(40.9%)増加の3,350,839千円となりました。これは、支払手形及び買掛金の増加285,832千円、短期借入金の増加250,000千円、長期借入金の増加237,224千円、未払金の増加159,186千円等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産の合計は、前連結会計年度末と比べ106,520千円(8.0%)減少の1,231,155千円となりました。これは、剰余金の配当及び親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前年同四半期末と比べ203,299千円(39.2%)減少の315,498千円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、296,634千円(前年同四半期は169,002千円の支出)となりました。これは、税金等調整前四半期純損失119,439千円、売上債権の増減額465,328千円、たな卸資産の増減額160,302千円、仕入債務の増減額260,803千円、未払金の増減額155,325千円、減価償却費90,325千円等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、395,340千円(前年同四半期は91,218千円の支出)となりました。これは、有形固定資産の取得による支出353,359千円、関係会社出資金の払込による支出24,900千円、短期貸付けによる支出10,000千円等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、518,325千円(前年同四半期は270,876千円の収入)となりました。これは、短期借入による収入300,000千円、短期借入金の返済による支出50,000千円、長期借入金による収入420,000千円、長期借入金の返済による支出139,216千円等によるものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は、39,743千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当社は、2020年3月16日開催の取締役会において、国内外の農業を中心としたフードバリューチェーンに関連する企業に投資を行うコーポレートベンチャーキャピタル「FARM to TABLE FUND投資事業有限責任組合」を設立することを決議し、無限責任組合員であるANEW Holdings株式会社との間で契約を締結いたしました。

契約会社名	相手先の名称	相手先の住所	契約締結日	契約内容
ベルグアース㈱	ANEW Holdings株式会社	東京都千代田区	2020年3月18日	投資事業有限責任組合契約

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,500,000
計	3,500,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年4月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年6月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,269,900	1,269,900	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株で あります。
計	1,269,900	1,269,900		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年2月1日～ 2020年4月30日		1,269,900		331,494		241,494

(5) 【大株主の状況】

2020年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
山口 一彦	愛媛県宇和島市	193,800	15.26
株式会社伊予銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	愛媛県松山市南堀端町1番地 (東京都中央区晴海一丁目8番12号 晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟)	60,000	4.72
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	57,700	4.54
OATアグリオ株式会社	東京都千代田区神田小川町1丁目3-1	50,000	3.93
ベルグアース共栄会	愛媛県宇和島市津島町北灘甲88番地1	42,800	3.37
ベルグアース従業員持株会	愛媛県宇和島市津島町北灘甲88番地1	38,170	3.00
株式会社高知前川種苗	高知県高知市相生町6-3	27,000	2.12
山口 眞由子	愛媛県宇和島市	25,000	1.96
トキタ種苗株式会社	埼玉県さいたま市見沼区中川1069	24,300	1.91
株式会社松山機型工業	愛媛県松山市堀江町163番地	20,000	1.57
計		538,770	42.43

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,267,900	12,679	
単元未満株式	普通株式 1,800		
発行済株式総数	1,269,900		
総株主の議決権		12,679	

【自己株式等】

2020年4月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ベルグアース株式会社	愛媛県宇和島市津島町北灘甲 88番地1	200		200	0.0
計		200		200	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2020年2月1日から2020年4月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年11月1日から2020年4月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、えひめ有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第19期連結会計年度	有限責任監査法人トーマツ
第20期第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間	えひめ有限責任監査法人

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	489,299	315,498
受取手形及び売掛金	855,512	1,273,212
電子記録債権	173,628	221,256
商品及び製品	10,473	14,142
仕掛品	70,045	159,751
原材料及び貯蔵品	126,598	194,730
その他	58,503	98,237
貸倒引当金	2,086	2,110
流動資産合計	1,781,975	2,274,718
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,007,276	1,284,152
機械及び装置(純額)	190,739	180,386
土地	512,894	512,894
その他(純額)	30,427	46,147
有形固定資産合計	1,741,338	2,023,580
無形固定資産	40,185	40,942
投資その他の資産	152,289	242,753
固定資産合計	1,933,813	2,307,276
資産合計	3,715,788	4,581,995

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年4月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	301,588	587,420
電子記録債務	249,039	224,010
短期借入金	1 400,000	1 650,000
1年内返済予定の長期借入金	265,919	309,478
未払金	155,905	315,091
未払法人税等	19,758	8,885
賞与引当金	54,312	52,709
その他	80,328	72,452
流動負債合計	1,526,852	2,220,048
固定負債		
長期借入金	688,865	926,090
資産除去債務	76,671	92,721
その他	85,723	111,979
固定負債合計	851,260	1,130,791
負債合計	2,378,112	3,350,839
純資産の部		
株主資本		
資本金	331,494	331,494
資本剰余金	245,674	245,674
利益剰余金	558,430	425,739
自己株式	398	398
株主資本合計	1,135,200	1,002,510
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	279	504
為替換算調整勘定	63	215
その他の包括利益累計額合計	342	720
新株予約権	554	554
非支配株主持分	202,263	228,810
純資産合計	1,337,675	1,231,155
負債純資産合計	3,715,788	4,581,995

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年4月30日)
売上高	2,120,529	2,268,825
売上原価	1,601,055	1,795,994
売上総利益	519,474	472,830
販売費及び一般管理費	578,850	662,941
営業損失()	59,376	190,111
営業外収益		
受取利息	15	2
受取配当金	643	72
受取手数料	4,108	1,990
補助金収入	3,729	601
その他	2,215	1,337
営業外収益合計	10,712	4,004
営業外費用		
支払利息	1,979	2,747
持分法による投資損失	10,652	9,858
その他	743	275
営業外費用合計	13,375	12,882
経常損失()	62,039	198,989
特別利益		
補助金収入	-	78,850
その他	-	699
特別利益合計	-	79,549
特別損失		
固定資産除却損	286	0
特別損失合計	286	0
税金等調整前四半期純損失()	62,326	119,439
法人税、住民税及び事業税	3,627	2,059
法人税等調整額	16,361	28,052
法人税等合計	12,733	25,993
四半期純損失()	49,593	93,446
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,654	26,547
親会社株主に帰属する四半期純損失()	51,247	119,993

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年4月30日)
四半期純損失()	49,593	93,446
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	367	224
為替換算調整勘定	73	152
その他の包括利益合計	293	377
四半期包括利益	49,887	93,823
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	51,541	120,371
非支配株主に係る四半期包括利益	1,654	26,547

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	62,326	119,439
減価償却費	85,508	90,325
貸倒引当金の増減額(は減少)	337	24
賞与引当金の増減額(は減少)	5,859	1,603
受取利息及び受取配当金	658	74
補助金収入	3,729	79,451
支払利息	1,979	2,747
持分法による投資損益(は益)	10,652	9,858
固定資産除却損	286	0
売上債権の増減額(は増加)	428,263	465,328
たな卸資産の増減額(は増加)	146,423	160,302
仕入債務の増減額(は減少)	254,014	260,803
未払金の増減額(は減少)	159,661	155,325
未収消費税等の増減額(は増加)	-	18,655
その他	12,553	35,254
小計	148,048	361,023
利息及び配当金の受取額	658	74
利息の支払額	2,224	2,754
補助金の受取額	3,729	79,451
法人税等の支払額	23,119	13,074
その他	-	693
営業活動によるキャッシュ・フロー	169,002	296,634
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,200	1,600
有形固定資産の取得による支出	46,926	353,359
無形固定資産の取得による支出	2,424	688
投資有価証券の取得による支出	550	550
短期貸付けによる支出	20,000	10,000
短期貸付金の回収による収入	20,000	-
関係会社株式の取得による支出	37,022	1,000
関係会社出資金の払込による支出	-	24,900
保険積立金の積立による支出	2,980	3,264
その他	115	21
投資活動によるキャッシュ・フロー	91,218	395,340

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	200,000	300,000
短期借入金の返済による支出	100,000	50,000
長期借入れによる収入	300,000	420,000
長期借入金の返済による支出	116,173	139,216
配当金の支払額	12,147	12,210
その他	802	247
財務活動によるキャッシュ・フロー	270,876	518,325
現金及び現金同等物に係る換算差額	73	152
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	10,728	173,801
現金及び現金同等物の期首残高	508,068	489,299
現金及び現金同等物の四半期末残高	518,797	315,498

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。当第2四半期連結会計期間末における当座貸越契約に係る借入金の未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年4月30日)
当座貸越極度額の総額	700,000千円	700,000千円
借入実行残高	400,000千円	650,000千円
差引額	300,000千円	50,000千円

2 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入金に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年4月30日)
ファンガーデン株式会社	18,870千円	20,286千円
株式会社むさしのタネ	18,694千円	48,217千円
計	37,566千円	68,503千円

(注) 債務保証額から持分法適用に伴う負債として計上された金額を控除した金額を記載しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)
給与手当	148,809千円	171,605千円
賞与引当金繰入額	15,399千円	17,653千円
荷造運賃費	149,219千円	165,790千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)
現金及び預金	518,797千円	315,498千円
預金期間が3か月を超える定期預金	-千円	-千円
現金及び現金同等物	518,797千円	315,498千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年1月30日 定時株主総会	普通株式	12,697	10.00	2018年10月31日	2019年1月31日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年1月30日 定時株主総会	普通株式	12,696	10.00	2019年10月31日	2020年1月31日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	野菜苗・苗関 連事業	農業・園芸用 タネ資材販売 事業	海外事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,065,329	41,828	13,372	2,120,529	-	2,120,529
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	5,793	5,793	5,793	-
計	2,065,329	41,828	19,165	2,126,323	5,793	2,120,529
セグメント利益又は損 失()	143,981	373	21,410	122,197	181,573	59,376

(注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額 181,573千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失()と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	野菜苗・苗関 連事業	農業・園芸用 タネ資材販売 事業	海外事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,190,227	48,419	30,178	2,268,825	-	2,268,825
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	3,610	3,610	3,610	-
計	2,190,227	48,419	33,789	2,272,436	3,610	2,268,825
セグメント利益又は損 失()	46,442	2,227	26,650	17,563	207,675	190,111

(注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額 207,675千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失()と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

「野菜苗生産販売事業」は、「野菜苗・苗関連事業」に名称変更しております。

また、当社グループは、従来より「野菜苗生産販売事業」「農業・園芸用タネ資材販売事業」「海外事業」を報告セグメントとし、報告セグメントに属さない貸し農園事業を「その他」に区分しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、貸し農園事業を「野菜苗・苗関連事業」に含め、「野菜苗・苗関連事業」「農業・園芸用タネ資材販売事業」「海外事業」を報告セグメントとして変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの名称及びセグメント区分に基づき記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	40円36銭	94円51銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	51,247	119,993
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額()(千円)	51,247	119,993
普通株式の期中平均株式数(株)	1,269,700	1,269,653

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年6月12日

ベルグアース株式会社
取締役会 御中

えひめ有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 丸木 公介 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉松 勲 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているベルグアース株式会社の2019年11月1日から2020年10月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2020年2月1日から2020年4月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年11月1日から2020年4月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ベルグアース株式会社及び連結子会社の2020年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の2019年10月31日をもって終了した前連結会計年度の第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して2019年6月13日付で無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して2020年1月30日付で無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。